

令和5年度 行政評価の取組結果（総務市民局）

【Plan】 計画 / 【Do】 実施														【Check】 評価 / 【Action】 改善							
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	旧所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					R4年度 決算額 （千円）	R5年度		人件費 （目安） 金額 （千円）	R5年度 事業 評価	評価の理由	R5年度 局施策 評価	局施策評価の理由及び課題		
							指標名等	現状値 （基準値）	R4年度		R5年度		中期 目標	予算額 （千円）						決算額 （千円）	
I-1-(1)-① 仕事と 子育て の両立 支援	1	⑤ ⑧ ⑩	ワーク・ライ フ・バランス 推進事業	女性 の輝く 社会推 進室	総務 局女 性の 輝く 社会 推進 室	誰もが多様な働き方や生き方を選択でき、活力ある豊かな社会を実現するため、企業等の取組支援などを行うとともに、企業や地域での様々な活動と連携しながら仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）の推進を図る。	仕事と生活の調和が図られていると感じる人の割合	68.5% (R1年 度)	目標	R1年度比 増加	R1年度比 増加		R1年度 比増加 (R6年 度)	3,960	6,911	3,069	8,400	順調	<p>【評価理由】</p> <p>女性活躍・ワークライフバランス表彰では新たに4社が受賞し、累計が90社となり、目標通りの表彰数となった。</p> <p>女性活躍やワークライフバランスの推進に取り組む企業へのアドバイザー派遣、各種セミナー開催などの支援について、申込件数は令和4年度とほぼ同程度（R4：26回→R5：27回）であった。</p> <p>また、これから取り組もうとする企業の参考になるよう、市内の様々な業種の企業の先進的な取組事例をホームページで紹介するなど、周知方法を工夫した。</p> <p>仕事と生活の調和が図られていると感じる人の割合は、令和元年度に近い水準を維持しているため、「順調」と判断。</p>	順調	<p>【課題】</p> <p>国の方針等を受け、女性活躍やワークライフバランスの推進、働き方改革がより一層求められる中、さらなる意識改革が重要となる。本市の支援制度を的確に企業へPRするなど、今後も企業の意識改革につながる取組を適切に実施する必要がある。</p>
I-1-(3)-② 家庭教 育支援 の充実	2	③ ④ ⑪ ⑰	家庭・地域・ 学校パート ナーシップ事 業	生涯 学習 課	市民 文化 ス ポー ツ局 生涯 学習 課	家庭教育学級や子育てサポーターなどの活動を通じて、保護者の不安を軽減するため、関係機関や関係部局と連携しながら、情報提供、啓発活動を行い、保護者が家庭教育について学ぶ機会の充実、子どもの基本的な生活習慣定着への理解を促すための情報提供、啓発活動を進める。	家庭教育学級長向けアンケート満足度	—	目標	85 %	85 %		85% (毎年 度)	3,338	5,150	3,365	9,150	順調	<p>【評価理由】</p> <p>保護者等がより活動しやすい家庭教育学級の運営を行った結果、アンケート満足度の目標を達成した。</p> <p>また、オンラインで学べるウェブ漫画を作成し、子育て支援に関する情報発信を行った。</p> <p>以上のことから「順調」と判断。</p> <p>【課題】</p> <p>市民センターが主体となって、家庭・地域・学校を連携させる仕組みを充実させる必要がある。</p> <p>また、家庭教育学級に参加できない保護者への取組として、家庭教育力の向上や子育て支援につながる動画を配信するなど多様な家庭教育の支援を検討する必要がある。</p>	順調	

令和5年度 行政評価の取組結果（総務市民局）

【Plan】 計画 / 【Do】 実施														【Check】 評価 / 【Action】 改善					
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	旧所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					R4年度 決算額 （千円）	R5年度		人件費 （目安） 金額 （千円）	R5年度 事業 評価	評価の理由	R5年度 局施策 評価	局施策評価の理由及び課題
							指標名等	現状値 （基準値）	目標	R4年度	R5年度		中期 目標	予算額 （千円）					
I-1-(3)-③ 地域全体が教育を支える社会の実現	3	③ ④ ⑪ ⑰	家庭・地域・学校パートナーシップ事業	生涯学習課	市民文化スポーツ局生涯学習課	家庭教育学級や子育てサポーターなどの活動を通じて、保護者の不安を軽減するため、関係機関や関係部局と連携しながら、情報提供、啓発活動を行い、保護者が家庭教育について学ぶ機会の充実、子どもの基本的な生活習慣定着への理解を促すための情報提供、啓発活動を進める。	家庭教育学級長向けアンケート満足度	—	目標 85 %	実績 91 %	達成率 107.1 %	85 % (毎年度)	3,338	5,150	3,365	9,150	順調	順調	<p>【評価理由】 保護者等がより活動しやすい家庭教育学級の運営を行った結果、アンケート満足度の目標を達成した。 また、オンラインで学べるウェブ漫画を作成し、子育て支援に関する情報発信を行った。 以上のことから「順調」と判断。</p> <p>【課題】 市民センターが主体となり、保護者等が無理なく楽しく活動ができるよう家庭教育学級の運営を行った。 家庭教育学級長向けアンケートの満足度の成果指標の達成率が目標を上回っているため「順調」と判断。</p>
I-3-(1)-① 多様な学習機会や学習情報、学びの場の提供	4	③ ④ ⑤ ⑪ ⑬ ⑰	生涯学習活動促進事業	生涯学習課	市民文化スポーツ局生涯学習課	各市民センター等で、地域課題や現代的課題等の解決を目指す講座、心と体の健康づくりを目指す講座など幅広い分野にわたる講座を実施する。 また、それぞれの地域の特色を生かし、家庭・地域・学校が連携して、子どもたちに様々な体験活動や世代間交流の機会を提供し、地域ぐるみで子どもを見守り育てる意識を高め、地域全体で子どもの健全育成に取り組む機運を醸成する。	生涯学習市民講座参加者数	93,589人 (H25年度)	目標 前年度 (56,844人) 以上	実績 85,836人	達成率 151.0 %	前年度以上 (毎年度)	12,262	13,027	11,861	6,900	順調	順調	<p>【評価理由】 生涯学習市民講座の参加者数が増え、目標を達成した。 また、生涯学習推進コーディネーターの配置割合は横ばいで、達成率は目標の60%を超えた。 以上のことから「順調」と判断。</p> <p>【課題】 地域に根付いた活動を実施するため、地域の実情を反映し、地域課題の解決につながる講座を増やす必要がある。 生涯学習推進コーディネーター配置事業については、館長研修や各区の社会教育主事・主事補を通じて、生涯学習推進コーディネーターの配置の意義、効果を周知し、生涯学習推進コーディネーターの配置を促進していく必要がある。 また、コーディネーターの資質を高めていくため、引き続き研修等を行う必要がある。</p>
						生涯学習活動に関する満足度	96.3% (H25年度)	目標 95 %	実績 93.4 %	達成率 98.3 %	95 % (R7年度)								

令和5年度 行政評価の取組結果（総務市民局）

【Plan】 計画 / 【Do】 実施											【Check】 評価 / 【Action】 改善									
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	旧所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					R4年度 決算額 （千円）	R5年度		人件費 （目安） 金額 （千円）	R5年度 事業 評価	評価の理由	R5年度 局施策 評価	局施策評価の理由及び課題	
							指標名等	現状値 （基準値）	R4年度		R5年度		中期 目標	予算額 （千円）						決算額 （千円）
	5	④ ⑪ ⑰	生涯学習推進 コーディネー ター配置事業	生涯学 習課	市民文 化ス ポー ツ局 生涯 学習 課	多様化・高度化 する市民の学習要 求に応え、生涯学 習事業の充実及び 学習の促進を目的 に、全市民セン ターに生涯学習推 進コーディネー ターを配置する。	生涯学習推進 コーディネー ターの配置割合	56.2% (H25年 度)	目標 60 %	実績 36.9 %	達成率 61.5 %	60% (毎年 度)	2,848	6,052	2,501	3,650	順調	生涯学習推進コーディネー ターの配置割合は横ばいで、 達成率は目標の60%を超えた ので「順調」と判断。		
I-3- (2)-① 地域活 動を リード する人 材の育 成	6	④ ⑪ ⑰	北九州市民カ レッジ事業	生涯学 習総 合セ ンター	市民文 化ス ポー ツ局 生涯 学習 総 合セ ンター	市民の多様な学 習ニーズに対応し た生涯学習機会を 提供し、自己実現 の促進および「循 環型生涯学習社 会」を担う人材の 育成を図る。 北九州市民カ レッジの講座は、 生涯学習総合セン ター主催コース（ま ちづくり・人材育 成系、総合・教養 系の2コース）と高 等教育機関提携 コースを前期・後 期の2期で実施。	受講者数	1,682人 (H30年 度)	目標 1,700 人	実績 1,115 人	達成率 65.6 %	1,700人 (毎年 度)	4,013	4,229	3,151	20,700	順調	「講座数」については、令 和5年度は53講座（令和4年度 比-3）であったが、「受講者 数」では1,147人（令和4年度 比+32）となっていること から、「順調」と判断。	順調	【評価理由】 北九州市民カレッジ事業に ついて、「講座数」は、令和5 年度は53講座（令和4年度比 -3）であったが、受講者数は 1,147人（令和4年度比+32） となっている。 生涯学習活動促進事業につ いて、生涯学習市民講座の参 加者数が増え、目標を達成し た。 地域課題解決のための人材 活用支援事業について、継続 して、北九州市民カレッジ等 の講座や受講生に対する人材 マッチングに取り組んだ結 果、人材マッチング事業実施 件数の達成率は115.5%（目 標200件、実績231件）とな った。 以上のことから「順調」と 判断。 【課題】 北九州市民カレッジ事業に ついては、自己実現の促進及 び「循環型生涯学習社会」に つなげるため、引き続き市民 の多様な学習ニーズを把握す るとともに、生涯学習機会の 提供方法を検討する必要があ る。

令和5年度 行政評価の取組結果（総務市民局）

【Plan】 計画 / 【Do】 実施														【Check】 評価 / 【Action】 改善						
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	旧所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					R4年度	R5年度		人件費 (目安) 金額 (千円)	R5年度 事業 評価	評価の理由	R5年度 局施策 評価	局施策評価の理由及び課題	
							指標名等	現状値 (基準値)	R4年度		R5年度		中期 目標	決算額 (千円)						予算額 (千円)
7	③ ④ ⑤ ⑪ ⑬ ⑯ ⑰		生涯学習活動 促進事業	生涯 学習 課	市民 文化 ス ポ ー ツ 局 生 涯 学 習 課	各市民センター 等で、地域課題や 現代的課題等の解 決を目指す講座、 心と体の健康づく りを目指す講座な ど幅広い分野にわ たる講座を実施す る。 また、それぞれの 地域の特色を生か し、家庭・地域・ 学校が連携して、 子どもたちに様 々な体験活動や世 代間交流の機会を 提供し、地域ぐる みで子どもを見守 り育てる意識を高 め、地域全体で子 どもの健全育成に 取り組む機運を醸 成する。	生涯学習市民講 座参加者数	93,589 人 (H25年 度)	目標	前年度 (56,844 人) 以上	前年度以上		前年度 以上 (毎年 度)	12,262	13,027	11,861	6,900	順調	生涯学習市民講座参加者数 が令和4年度以上という目標を 達成したため「順調」と判 断。	生涯学習活動推進事業につ いては、地域に根付いた活動 を実施するため、地域の実情 を反映し、地域課題の解決に つながる講座を増やす必要が ある。 地域課題解決のための人材 活用支援事業については、市 民センター館長を対象に研修 を実施し、地域活動やボラン ティア活動に取り組む人材の 発掘や活動の場の提供に繋げ る必要がある。
									実績	85,836 人	97,014 人									
8	④ ⑪ ⑰		地域課題解決 のための人材 活用支援事業	生涯 学習 課	市民 文化 ス ポ ー ツ 局 生 涯 学 習 課	地域が主体的に 地域課題を解決す ることができるよ う、地域人材の発 掘～育成～活動ま でを体系的に支援 し、地域力アップ につなげる仕組み をつくる。学んだ 成果を地域に活か す講座の開催、地 域活動をリードす る人材育成事業 (市民センター館 長等研修など)及 び多様な機関との 連携強化を実施す る。	「地域活動を リードする人材 やボランティア 活動に取り組む人 材が増加してい ると感じる」に 肯定的な回答を した割合	37.6% (H27年 度)	目標	35 %	35 %		50% (R7年 度)	262	1,240	563	5,400	順調	継続して、北九州市民カ レッジ等の講座や受講生に対 する人材マッチングに取り組 んだ結果、人材マッチング事 業実施件数の達成率は 115.5%（目標200件、実績 231件）となったことから 「順調」と判断。	
									実績	32.4 %	—									達成率

令和5年度 行政評価の取組結果（総務市民局）

【Plan】 計画 / 【Do】 実施											【Check】 評価 / 【Action】 改善											
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	旧所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					R4年度 決算額 （千円）	R5年度		人件費 （目安） 金額 （千円）	R5年度 事業 評価	評価の理由	R5年度 局施策 評価	局施策評価の理由及び課題			
							指標名等	現状値 （基準値）	R4年度		R5年度		中期 目標	予算額 （千円）						決算額 （千円）		
I-3-(2)-② 地域を支える ボランティアの育成	9	④ ⑰	NPO・市民活 動促進事業	市民 活動 推進 課	市民 文化 ス ポ ー ツ 局 市 民 活 動 推 進 課	市民活動の促進 に加え、NPOと行政 の協働を推進する ため、活動や協働 等に関する相談・ 助言、情報提供、 研修・啓発等を実 施する。	サポートセン ター利用者数	目標	20,000	人	20,000	人	20,000 人 （毎年 度）	16,524	17,434	15,890	19,725	やや 遅れ	新規設立NPO法人数は順調 に推移するも、サポートセン ターの利用者数が目標を下回っ ていることから、「やや遅れ」と判断。	やや 遅れ	【評価理由】 新規設立NPO法人数は順調 に推移するも、サポートセン ター利用者数が目標を下回っ ているため、「やや遅れ」と判断。 【課題】 市民活動の更なる促進のため、 新たな活動参加者の掘り 起こしとともに、活動する市 民活動団体を育成していくこ とが必要である。 サポートセンター利用者数 はコロナ禍以前の水準を目指 す。	
								実績	29,293 人 （R1年 度）	9,791	人	10,231										人
								達成率	49.0	%	51.2	%										
							新規設立NPO法 人数	目標	15	法 人	15	法 人	15法人 （毎年 度）									
								実績	11	法 人	10	法 人										
								達成率	73.3	%	66.7	%										
II-1-(1)-② 市民の消費生 活の安定と向 上	10	④	消費者啓発の 推進	消費 生活 セン ター	市民 文化 ス ポ ー ツ 局 消 費 生 活 セン ター	悪質化・巧妙化 する消費者被害を 未然に防止するた め、法律相談会や 消費者啓発・教育 講座等、消費者自 身が危機回避や被 害にあった場合の 適切な対処法を身 に付けるための各 種事業を実施する など、啓発の推進 や支援を行う。	消費生活セン ターの認知度	目標	90	%	90	%	90%以 上 （毎年 度）	10,204	7,510	6,463	8,075	順調	消費生活センターの認知度 及び消費生活センター等に相 談又は相談を勧める市民の割 合がともに9割を超えており、 高い数値を維持しているため 「順調」と判断。	順調	【評価理由】 消費生活センターの認知度 及び消費生活センター等に相 談又は相談を勧める市民の割 合がともに9割を超えており、 高い数値を維持しているため 「順調」と判断。 【課題】 消費者トラブルが多様化、 複雑化している中で、消費者 利益の擁護及び増進に関する 総合的な施策の推進を図る必 要がある。	
								実績	92% （H23年 度）	93.4	%	94.4										%
								達成率	103.8	%	104.9	%										
							消費生活セン ター等に相談又 は相談を勧める 市民の割合	目標	90	%	90	%	90%以 上 （毎年 度）									
								実績	91.5% （H26年 度）	94.1	%	94.7										%
								達成率	104.6	%	105.2	%										

令和5年度 行政評価の取組結果（総務市民局）

【Plan】 計画 / 【Do】 実施														【Check】 評価 / 【Action】 改善							
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	旧所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					R4年度 決算額 （千円）	R5年度		人件費 （目安） 金額 （千円）	R5年度 事業 評価	評価の理由	R5年度 局施策 評価	局施策評価の理由及び課題		
							指標名等	現状値 （基準値）	R4年度	R5年度	中期 目標		予算額 （千円）	決算額 （千円）							
II-1- (3)-① 「北九 州市安 全・安 心条 例」の 制定と 安全・ 安心に 関わる 施策の 推進	11	①	日本トップクラスの安全・安心なまちづくり関連事業	安全・安心推進課	市民文化スポーツ局 安全・安心推進課	警察、関係団体等と連携し、市民等の防犯意識の向上や自主防犯活動の活発化、安全・安心な環境の整備などに取り組み、日本トップクラスの安全・安心なまちづくりを推進する。	防犯パトロール活動への参加者数	14,170人 (H27年度)	目標 前年度 (47,538人) 比増	前年度比増	前年度 比増 (毎年度)	2,398	6,525	2,795	15,900	順調	「住んでいる地域が安全だ」と思う市民の割合が令和4年度に比べて増加していることに加え、「ながら見守り活動」の推進等により防犯パトロール活動参加者数が増加していることから「順調」と判断。				
								実績 70,619人	83,591人	達成率 148.6%										118.4%	
								73.7% (H27年度)	目標 前年度 (84.1%) 比増	前年度比増										前年度 比増 (毎年度)	86.0%
	12	①	子どもと女性の犯罪被害防止対策事業	安全・安心推進課	市民文化スポーツ局 安全・安心推進課	子どもや女性の犯罪被害を防止するため、子ども自身や子どもを見守る保護者、女性を対象とした安全セミナー等を開催し、防犯意識や知識の向上を図る。	「安全セミナー」「地域安全マップづくり」延べ実施校	35校 (H25年度)	目標 215校	215校	215校 (R5年度)	1,942	2,416	2,333	15,900	順調	性犯罪認知件数は目標を下回ったものの、「安全セミナー」及び「地域安全マップづくり」の延べ実施校は目標を上回ったため、「順調」と判断。	順調		【評価理由】 市民の体感治安は令和4年度に比べ、向上しており高い水準を維持している。 また、安全・安心なまちづくりに向けた各種取組を推進した結果、性犯罪認知件数は目標を下回ったものの、その他の事業では100%以上の達成率となったため、「順調」と判断。 【課題】 性犯罪認知件数が増加していることから、引き続き警察、関係団体等と連携し、防犯意識や知識の向上が必要とされる。	
								実績 190校	217校	達成率 88.4%											100.9%
								104件 (H25年)	目標 前年件数 (51件) 減	前年件数減											件数減 (毎年)
	13	①	安全・安心総合相談ダイヤル事業	安全・安心推進課	市民文化スポーツ局 安全・安心推進課	市民生活の身近な安全・安心に関する相談を受け付ける「安全・安心総合相談ダイヤル」を円滑に運用し、市民の相談機会の充実と不安感解消を図る。	安全・安心総合相談ダイヤルの認知度	22% (H27年度)	目標 前年度 (31.8%) 比増	前年度比増	前年度 比増 (毎年度)	17,454	18,454	17,814	15,900	順調	安全・安心総合相談ダイヤルについて、令和4年度と同程度の相談件数となっており、円滑に運営できているため、「順調」と判断。				
								実績 30.7%	30.7%	達成率 96.5%										100.0%	

令和5年度 行政評価の取組結果（総務市民局）

【Plan】 計画 / 【Do】 実施										【Check】 評価 / 【Action】 改善										
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	旧所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					R4年度 決算額 （千円）	R5年度		人件費 （目安） 金額 （千円）	R5年度 事業 評価	評価の理由	R5年度 局施策 評価	局施策評価の理由及び課題	
							指標名等	現状値 （基準値）	R4年度	R5年度	中期 目標		予算額 （千円）	決算額 （千円）						
II-1-(3)-② 防犯活動の強化	14	⑤ ⑪	地域防犯対策 事業	安全・ 安心 推進 課	市民文化 スポーツ 局 安全・ 安心 推進 課	北九州市安全・ 安心条例では、 「市民等は安全・ 安心に関する意識 を自ら高め、行動 すること」「市及 び市民等は相互に 連携を深め、防犯 活動を協力して推 進すること」と定 められている。こ の事業では、市民 の防犯意識を高 め、地域住民の自 主防犯活動を促進 し、安全・安心を 実感できるまちの 実現を図る。	街頭犯罪件数	6,612件 (H25年)	目標	前年 (2,183件) 比減	前年比減	前年比 減	25,056	25,179	24,862	15,900	順調	街頭犯罪件数及び市民が感 じる治安状況が目標を概ね達 成していることから「順調」 と判断。	順調	【評価理由】 安全・安心なまちづくりに おけた各種取組を推進した結 果、各事業で概ね目標を達成 していることから、「順調」 と判断。 【課題】 体感治安の向上に向けて、 安全・安心に関する取組のさ らなる情報発信が必要とされ る。
								実績	2,296 件	2,556 件										
								達成率	94.8 %	88.7 %										
							市民が感じる治 安状況（体感治 安）	73.7% (H27年 度)	目標	前年度 (84.1%) 比増	前年度比増	前年度 比増 (毎年 度)								
								実績	86.0 %	86.8 %										
								達成率	102.3 %	100.9 %										
15	⑩	防犯灯設置事 業	安全・ 安心 推進 課	市民文化 スポーツ 局 安全・ 安心 推進 課	夜間における犯 罪の発生を未然に 防止し、公衆の通 行の安全を図るた め地域と市が協力 しながら、防犯灯 を設置。 防犯灯の設置に あたっては、LED防 犯灯の設置促進を 図り、町内会等の 地域の防犯灯の設 置のため費用の一 部を助成し、明る く安心して生活で きるまちづくりを 推進。	刑法犯認知件数	9,682件 (H27年)	目標	前年 (5,109件) 比減	前年比減	前年比 減 (毎年)	33,336	64,197	35,766	3,435	順調	防犯灯の設置（LED化）が 進み、刑法犯認知件数や市民 が感じる治安状況が概ね目標 を達成していることから「順 調」と判断。	順調		
							実績	5,452 件	6,044 件											
							達成率	93.3 %	89.1 %											
						市民が感じる治 安状況（体感治 安）	73.7% (H27年 度)	目標	前年度 (84.1%) 比増	前年度比増	前年度 比増 (毎年 度)									
							実績	86.0 %	86.8 %											
							達成率	102.3 %	100.9 %											

令和5年度 行政評価の取組結果（総務市民局）

【Plan】 計画 / 【Do】 実施														【Check】 評価 / 【Action】 改善						
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	旧所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					R4年度	R5年度		人件費 (目安) 金額 (千円)	R5年度 事業 評価	評価の理由	R5年度 局施策 評価	局施策評価の理由及び課題	
							指標名等	現状値 (基準値)	R4年度		R5年度		中期 目標	決算額 (千円)						予算額 (千円)
16	16		防犯カメラ事業	安全・安心推進課	市民文化スポーツ局 安全・安心推進課	<p>暴力団犯罪をはじめ街頭犯罪を抑止し、市民生活等の安全・安心を確保するため、人が多く集まる繁華街や幹線道路に既に設置している防犯カメラの適正な維持管理を行う。</p> <p>更に、近年開発が進む駅周辺などに新たに防犯カメラを設置し、適切な維持管理を行う。</p>	市民が感じる治安状況（体感治安）	73.7% (H27年度)	目標	前年度 (84.1%) 比増	前年度比増	前年度 比増 (毎年度)	53,581	77,472	72,133	3,435	順調	防犯カメラの適正な維持管理のもと、そのデータは有効に活用されており、刑法犯認知件数や市民が感じる治安状況が概ね目標を達成していることから「順調」と判断。		
									実績	86.0 %	86.8 %									
									達成率	102.3 %	100.9 %									
							刑法犯認知件数	9,682件 (H27年)	目標	前年 (5,109件) 比減	前年比減	前年 比減 (毎年)								
									実績	5,452 件	6,044 件									
									達成率	93.3 %	89.1 %									
17	17		防犯カメラ設置補助事業	安全・安心推進課	市民文化スポーツ局 安全・安心推進課	<p>安全・安心条例の施行を機に、地域団体や事業者が犯罪抑止を目的として公共空間を撮影する防犯カメラを設置する際の経費の一部を補助することで、安全・安心な環境の構築に向けたさらなる取組を推進する。</p>	刑法犯認知件数	9,682件 (H27年)	目標	前年 (5,109件) 比減	前年比減	前年 比減 (毎年)	11,014	13,720	6,988	3,435	順調	設置補助台数は目標50台に対して35台と若干下回っているが、刑法犯認知件数や市民が感じる治安状況が概ね目標を達成していることから「順調」と判断。		
									実績	5,452 件	6,044 件									
									達成率	93.3 %	89.1 %									
							市民が感じる治安状況（体感治安）	73.7% (H27年度)	目標	前年度 (84.1%) 比増	前年度比増	前年度 比増 (毎年度)								
									実績	86.0 %	86.8 %									
									達成率	102.3 %	100.9 %									

令和5年度 行政評価の取組結果（総務市民局）

【Plan】 計画 / 【Do】 実施														【Check】 評価 / 【Action】 改善					
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	旧所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					R4年度	R5年度		人件費 (目安) 金額 (千円)	R5年度 事業 評価	評価の理由	R5年度 局施策 評価	局施策評価の理由及び課題
							指標名等	現状値 (基準値)	R4年度	R5年度	中期 目標	決算額 (千円)	予算額 (千円)	決算額 (千円)					
II-1-(3)-③ 暴力団 追放運 動の推 進	18	①	暴力追放の推 進	安全・ 安心 推進 課	市民文 化ス ポーツ 局 安全・ 安心 推進 課	社会全体で暴力 団を排除する取組 を推進するため、 事業者・市民の暴 排意識を高める市 民暴力追放総決起 大会や暴力追放強 調月間による集中 的な啓発活動など を実施し、官民一 体となって取り組 む。	暴 追 対 策 に 対 し て 評 価 し た 市 民 の 割 合	48% (H25年 度)	目標	前年度 (79.4%) 比増	前年度比増	6,458	9,858	2,857	12,850	順調	令和5年度は大会や研修等を 16回開催した。暴追対策に 対して評価した市民の割合が令 和4年度に比べて増加している ことから「順調」と判断。	順調	【評価理由】 暴追対策に対して評価した 市民の割合が令和4年度に比 べて増加していること、また、 企業においても暴力団排除の 意識が醸成されてきているこ とから、「順調」と判断。 【課題】 暴排意識を持続させるた め、継続的な施策が必要であ る。
								実績	80.8 %	81.4 %	前年度 比増 (毎年 度)								
達成率	101.8 %	100.7 %																	
						企業における暴 力団排除条項の 規定割合 ※中期目標改訂 (R5年度目標設 定時)	55.8% (H25年 度)	目標	R3年度 (83.8%) 比増	R3年度 (83.8%) 比増	R3年度 比増 (R5年 度)	707	2,249	875	4,300	順調	令和5年度の相談件数は80 回であり、目標回数を達成し ている。また、暴追対策に 対して評価した市民の割合が令 和4年度に比べて増加している ことから「順調」と判断。		
								実績	隔年調査 のため 未実施	85.7 %									
達成率	—	102.3 %																	
19	①		民事介入暴力 相談事業	安全・ 安心 推進 課	市民文 化ス ポーツ 局 安全・ 安心 推進 課	市民生活への暴 力団等の介入を排 除し、安全・安心 なまちづくりを 図るため、民事介 入暴力相談を実施。	暴 追 対 策 に 対 し て 評 価 し た 市 民 の 割 合	48% (H25年 度)	目標	前年度 (79.4%) 比増	前年度比増	707	2,249	875	4,300	順調	令和5年度の相談件数は80 回であり、目標回数を達成し ている。また、暴追対策に 対して評価した市民の割合が令 和4年度に比べて増加している ことから「順調」と判断。		
								実績	80.8 %	81.4 %	前年度 比増 (毎年 度)								
達成率	101.8 %	100.7 %																	
						企業における暴 力団排除条項の 規定割合 ※中期目標改訂 (R5年度目標設 定時)	55.8% (H25年 度)	目標	R3年度 (83.8%) 比増	R3年度 (83.8%) 比増	R3年度 比増 (R5年 度)	707	2,249	875	4,300	順調	令和5年度の相談件数は80 回であり、目標回数を達成し ている。また、暴追対策に 対して評価した市民の割合が令 和4年度に比べて増加している ことから「順調」と判断。		
								実績	隔年調査 のため 未実施	85.7 %									
達成率	—	102.3 %																	

令和5年度 行政評価の取組結果（総務市民局）

【Plan】 計画 / 【Do】 実施														【Check】 評価 / 【Action】 改善					
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	旧所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					R4年度 決算額 （千円）	R5年度		人件費 （目安） 金額 （千円）	R5年度 事業 評価	評価の理由	R5年度 局施策 評価	局施策評価の理由及び課題
							指標名等	現状値 （基準値）	R4年度		R5年度		中期 目標	予算額 （千円）					
II-1-(3)-④ 交通安全の推進	20	①	暴力団員の社会復帰対策推進事業	安全・安心推進課	市民文化スポーツ局 安全・安心推進課	暴力団の壊滅に向けて、本市に拠点を置く暴力団構成員の「離脱・就労支援対策」を推進し、「日本トップクラスの安全なまち」及び「誰もが安心して暮らせるまち」の実現を図る。	「暴力団離脱・就労相談窓口」での相談回数	—	目標	10 回	10 回	10回 （毎年度）	1,251	3,000	649	6,550	大変 順調		
							実績	9 回	13 回										
							達成率	90.0 %	130.0 %										
II-1-(3)-④ 交通安全の推進	21	③	交通安全推進事業	安全・安心推進課	市民文化スポーツ局 安全・安心推進課	第10次北九州市交通安全計画に基づき、重点項目について啓発を実施。 生涯にわたる交通安全教育及び効果的な広報啓発活動により、市民に広く交通安全思想を普及し、交通事故防止を図るもの。	交通事故の発生件数（警察統計のため暦年でカウント）	8,325件 （H26年）	目標	前年 （4,074件） 比減	前年比減	令和7年 までに 3,300件 以下	11,526	11,178	10,386	9,800	順調		
							実績	3,949 件	3,910 件										
							達成率	103.1 %	101.0 %										
							交通事故死亡者数（警察統計のため暦年でカウント）	23人 （H26年）	目標	前年 （18人） 比減	前年比減	令和7年 までに 15人以下							
							実績	16 人	16 人										
							達成率	111.1 %	100.0 %										
II-1-(3)-④ 交通安全の推進	22	③	交通安全センター管理運営	安全・安心推進課	市民文化スポーツ局 安全・安心推進課	北九州市立交通安全センターを管理するとともに、交通安全教室等を開催し、自転車の安全運転や、交通ルール・マナーの徹底を図る。	交通事故の発生件数（警察統計のため暦年でカウント）	8,325件 （H26年）	目標	前年 （4,074件） 比減	前年比減	令和7年 までに 3,300件 以下	27,881	27,881	27,881	3,650	順調		
							実績	3,949 件	3,910 件										
							達成率	103.1 %	101.0 %										
							自転車関連事故の発生件数（警察統計のため暦年でカウント）	972件 （H26年）	目標	前年 （466件） 比減	前年比減	前年比 減 （毎年）							
							実績	495 件	491 件										
							達成率	93.8 %	100.8 %										

【評価理由】
交通事故発生件数及び自転車関連事故の発生件数は低い水準を保持しており、「順調」と判断。

【課題】
交通安全推進事業は、対象を絞って効果的な取組を実施する必要がある。
また、交通安全教育や啓発活動を積極的に行うことにより、交通ルール、マナーの徹底を図る必要がある。

令和5年度 行政評価の取組結果（総務市民局）

【Plan】 計画 / 【Do】 実施											【Check】 評価 / 【Action】 改善									
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	旧所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					R4年度 決算額 （千円）	R5年度		人件費 （目安） 金額 （千円）	R5年度 事業 評価	評価の理由	R5年度 局施策 評価	局施策評価の理由及び課題	
							指標名等	現状値 （基準値）	R4年度		R5年度		中期 目標	予算額 （千円）						決算額 （千円）
II-1-(3)-⑤ 非行や 犯罪を 生まな い地域 づくり	23	⑤ ①	地域防犯対策 事業	安全・ 安心 推進 課	市民 文化 ス ポー ツ局 安全・ 安心 推進 課	北九州市安全・ 安心条例では、 「市民等は安全・ 安心に関する意識 を自ら高め、行動 すること」「市及 び市民等は相互に 連携を深め、防犯 活動を協力して推 進すること」と定 められている。こ の事業では、市民 の防犯意識を高 め、地域住民の自 主防犯活動を促進 し、安全・安心を 実感できるまちの 実現を図る。	街頭犯罪件数	6,612件 (H25年)	目標	前年 (2,183件) 比減	前年比減	前年比 減	25,056	25,179	24,862	15,900	順調	街頭犯罪件数及び市民が感 じる治安状況が目標を概ね達 成していることから「順調」 と判断。	順調	【評価理由】 安全・安心なまちづくりに おけた各種取組を推進した結 果、各事業で概ね目標を達成 していることから、「順調」 と判断。 【課題】 体感治安の向上に向けて、 安全・安心に関する取組のさ らなる情報発信が必要とされ る。
									実績	2,296 件	2,556 件									
									達成率	94.8 %	88.7 %									
							市民が感じる治 安状況（体感治 安）	73.7% (H27年 度)	目標	前年度 (84.1%) 比増	前年度比増	前年度 比増 (毎年 度)								
									実績	86.0 %	86.8 %									
									達成率	102.3 %	100.9 %									

令和5年度 行政評価の取組結果（総務市民局）

【Plan】 計画 / 【Do】 実施										【Check】 評価 / 【Action】 改善									
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	旧所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					R4年度 決算額 （千円）	R5年度		人件費 （目安） 金額 （千円）	R5年度 事業 評価	評価の理由	R5年度 局施策 評価	局施策評価の理由及び課題
							指標名等	現状値 （基準値）	R4年度	R5年度	中期 目標		決算額 （千円）	予算額 （千円）					
II-3-(2)-① 政策・ 方針決 定過程 への男 女共同 参画の 推進	24	⑤ ⑧ ⑩	北九州市職員 女性活躍・ ワークライフ バランス推進 プログラム推 進事業	女性 の輝く 社会推 進室	総務 局女 性の輝 く社会 推進室	女性職員の活躍 とワーク・ライ フ・バランスの推 進は一体的に取組 みを推進すること により相乗効果が 高まるため、女性 活躍推進法に基づ く特定事業主行動 計画「女性活躍推 進アクションプラン （第2期：平成26 年度～30年度）」 と次世代育成支援 対策推進法に基づ く特定事業主行動 計画「北九州市職 員ダイバーシティ 推進プログラム （平成27年度～31 年度）」を整理・ 統合し、令和元年5 月に「北九州市職 員女性活躍・ワーク ライフバランス 推進プログラム」 を策定した。組織 の持続的な成長と 多様化する市民 ニーズへ対応する ため、性別にかか わらず活躍できる 組織風土を醸成 し、全ての職員が 育児や介護等のラ イフスタイルの変 化に応じて柔軟な 働き方を選択する ことで、いきいき と働きがいを持って 活躍できる職場 を目指す。	女性役職者（係 長級以上）比率 （教職員・消防 職員を除く）	17.6% （H30年 度）	目標 単年度目標 なし	23 %	23% （R5年 度）	3,523	4,340	1,543	10,475	順調	女性職員の能力開発、キャ リア形成支援にかかる取組の 他、職員（メンティ）の自発 的な成長や不安・悩みの解 消、キャリア形成の支援を目的 とした「メンター・メン ティ研修」を実施した。女性 役職者・管理職比率は中長期 的に上昇傾向で推移しており 、令和5年度の目標を達成し たため「順調」と判断。	順調	【評価理由】 市職員向けの取組として は、研修等を通じたキャリア 形成支援により、女性職員の 登用は着実に進んできている。 市民向けの取組として、男 女共同参画センターにおい て、男女共同参画社会の形成 の推進に向けたイベントや講 座の開催、就業・キャリア アップ支援、相談対応等、可 能な限りオンライン等による 講義も交えるなど工夫して実 施している。 また、「男女共同参画 フォーラムin北九州」や「男 女共同参画に関する広報啓発 事業」など、市民や地域団体 への啓発事業についても継続 して実施している。以上のこ とから「順調」と判断。 【課題】 市職員向けについては、女 性職員が抱える能力不安や両 立不安の解消は引き続き必要 であり、加えてワーク・ライ フ・バランスの実現及び生産 性向上の観点から、働き方改 革がさらに求められており、 職場全体の意識改革も含め て、取組を進めていく必要が ある。 市民向けの取組として、男 女共同参画センター・ムーブ において、男女共同参画社会 の形成を一層推進するため、 より多くの方が関心を持って 参加できるイベントや講座と なるよう継続的にテーマや事 業手法を見直す必要がある。 地域における男女共同参画 推進啓発事業は市民を集めて 行う活動がベースとなっている が、参加者が固定しないよ う、リーチしにくい男性や若 年層への啓発拡大に繋げてい けるようさらなる工夫が必要 である。
							女性管理職（課 長級以上）比率 （教職員・消防 職員を除く）	13.6% （H30年 度）	目標 単年度目標 なし	15 %	15% （R5年 度）								

令和5年度 行政評価の取組結果（総務市民局）

【Plan】 計画 / 【Do】 実施														【Check】 評価 / 【Action】 改善					
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	旧所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					R4年度 決算額 （千円）	R5年度		人件費 （目安） 金額 （千円）	R5年度 事業 評価	評価の理由	R5年度 局施策 評価	局施策評価の理由及び課題
							指標名等	現状値 （基準値）	R4年度	R5年度	中期 目標		決算額 （千円）	予算額 （千円）					
25		④ ⑤ ⑧ ⑩ ⑰	男女共同参画センター管理運営事業	女性の輝く社会推進室	総務局女性の輝く社会推進室	性別による固定的役割分担意識に肯定的な人の割合 ※中期目標改訂（R5年度目標設定時）	17.0% （R4年度）	目標 H29年度（26.7%）の水 準より減少	単年度目標 なし	R4年度 の水準 より減 少 （R9年 度）	250,966	244,088	244,088	8,950	順調	一部の講座で対面ではなくオンラインによる講義等、新たな実施手法等を取り入れ工夫して実施したことにより、開催件数及び参加人数が概ね目標を達成したことから（目標：134件・7,759人、実績：130件・7,318人）、「順調」と判断。			
						男女共同参画社会という言葉の認知度 ※中期目標改訂（R5年度目標設定時）	78.4% （R4年度）	目標 80 %	単年度目標 なし										R4年度 の水準 より増 加 （R9年 度）
26		④ ⑤ ⑩ ⑰	地域における男女共同参画推進啓発事業【男女共同参画広報・啓発事業】	女性の輝く社会推進室	総務局女性の輝く社会推進室	地域における男女共同参画の推進を図るため、地域で活動している団体・グループ等が企画・実施する広報啓発活動を支援し、男女共同参画に関する理解を深める。	17.0% （R4年度）	目標 H29年度（26.7%）の水 準より減少	単年度目標 なし	R4年度 の水準 より減 少 （R9年 度）	3,020	3,508	2,878	5,050	順調	「男女共同参画フォーラム in北九州」は30回（参加者1,792名）開催することができた。 「男女共同参画に関する広報啓発事業」は、7団体により多様な啓発事業を24回（参加者1,287名）実施することができた。 いずれも令和4年度と同程度開催できたため「順調」と判断。			
						性別による固定的役割分担意識に肯定的な人の割合 ※中期目標改訂（R5年度目標設定時）	17.0% （R4年度）	実績 17.0 %	17.0 %										
						達成率 136.3 %													

令和5年度 行政評価の取組結果（総務市民局）

【Plan】 計画 / 【Do】 実施														【Check】 評価 / 【Action】 改善					
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	旧所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					R4年度	R5年度		人件費 (目安) 金額 (千円)	R5年度 事業 評価	評価の理由	R5年度 局施策 評価	局施策評価の理由及び課題
							指標名等	現状値 (基準値)	R4年度	R5年度	中期 目標	決算額 (千円)	予算額 (千円)	決算額 (千円)					
II-3-(2)-② ワー ク・ラ イフ・ バラン ス（仕 事と生 活の調 和）の 推進	27	⑤ ⑧ ⑩	ワーク・ライ フ・バラン ス推進事業	女性の輝 く社会 推進室	総務 局女 性の 輝く 社会 推進 室	誰もが多様な働 き方や生き方を選 択でき、活力ある 豊かな社会を実現 するため、企業等 の取組支援などを 行うとともに、企 業や地域での様々 な活動と連携しな がら仕事と生活の 調和（ワーク・ラ イフ・バランス） の推進を図る。	仕事と生活の調 和が図られてい ると感じる人の 割合	68.5% (R1年 度)	目標	R1年度比 増加	R1年度比 増加					順調	順調	【評価理由】 女性活躍・ワークライフバ ランス表彰や企業へのアドバ イザー派遣、各種セミナーの 開催等により、企業等への取 組支援が着実に進んでいる。 また、北九州イクボス同盟 についても加盟数が順調に増 加している。 市職員向けの取組として は、働き方改革やワーク・ラ イフ・バランスの推進、イク ボスマネジメントの実践に よって、令和4年度に引き続 き、男性職員の育児休業取得 率は中期目標を上回っている ことから、男性職員が育児休 業を当たり前取得できる組 織風土は着実に醸成されてき ていると言える。 以上のことから「順調」と 判断。 【課題】 国の方針等を受け、女性活 躍やワーク・ライフ・バラン スの推進、働き方改革がより 一層求められる中、さらなる 意識改革が重要となってく る。そのため、企業への取組 支援の効果的なPRを図るとと もに、働き方改革等への企業 の意識改革につながるような 取組を強化する必要がある。 市職員向けについては、女 性職員が抱える能力不安や両 立不安の解消は引き続き必要 であり、加えてワーク・ライ フ・バランスの実現及び生産 性向上の観点から、働き方改 革がさらに求められており、 職場全体の意識改革も含め て、取組を加速させる必要が ある。	
	28	⑤ ⑧ ⑩ ⑰	北九州イクボ ス同盟推進事 業	女性の輝 く社会 推進室	総務 局女 性の 輝く 社会 推進 室	働く人の幸せ、 生産性・業績の向 上、人材確保に繋 がり、その先にあ る「働きやすいま ち北九州」を目指 すために、平成29 年度に設立した 「北九州イクボス 同盟」を推進し、 経営者・管理職の 意識改革を図る。	仕事と生活の調 和が図られてい ると感じる人の 割合	68.5% (R1年 度)	目標	R1年度比 増加	R1年度比 増加					順調	順調	イクボス同盟加盟企業向け のセミナー開催やeラーニング 動画のリニューアル、イクボ ス推進企業の先進事例を紹介 する企業インタビューを実施 するなど、「北九州イクボス 同盟」の拡大を図り、加盟企 業・団体数も増加し、目標を 達成した。 (R4：286社→R5:315社) 仕事と生活の調和が図られ ていると感じる人の割合は、 令和元年度に近い水準を維持 しているため、「順調」と判 断。	
						ダイバーシティ 行動宣言等登 録・届出企業 (累計)	597社 (H26年 度)	目標	単年度目標 なし	単年度目標 なし									
								実績	1,624 社	1,610 社	1,600社 (R6年 度)								
								達成率	—	—									

令和5年度 行政評価の取組結果（総務市民局）

【Plan】 計画 / 【Do】 実施														【Check】 評価 / 【Action】 改善					
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	旧所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					R4年度	R5年度		人件費 (目安) 金額 (千円)	R5年度 事業 評価	評価の理由	R5年度 局施策 評価	局施策評価の理由及び課題
							指標名等	現状値 (基準値)	R4年度	R5年度	中期 目標	決算額 (千円)	予算額 (千円)	決算額 (千円)					
29	⑤ ⑧ ⑩		北九州市職員 女性活躍・ ワークライフ バランス推進 プログラム推 進事業	女性 の輝く社 会推進室	総務局 女性の輝く 社会推進 室	女性職員の活躍とワーク・ライフ・バランスの推進は一体的に取組みを推進することにより相乗効果が高まるため、女性活躍推進法に基づく特定事業主行動計画「女性活躍推進アクションプラン（第2期：平成26年度～30年度）」と次世代育成支援対策推進法に基づく特定事業主行動計画「北九州市職員ダイバーシティ推進プログラム（平成27年度～31年度）」を整理・統合し、令和元年5月に「北九州市職員女性活躍・ワークライフバランス推進プログラム」を策定した。組織の持続的な成長と多様化する市民ニーズへ対応するため、性別にかかわらず活躍できる組織風土を醸成し、全ての職員が育児や介護等のライフスタイルの変化に応じて柔軟な働き方を選択することで、いきいきと働きがいを持って活躍できる職場を目指す。	両立しながら新たな業務等にチャレンジしたいと思う職員の割合	目標	単年度目標なし	80 %	80% (R5年度)	3,523	4,340	1,543	10,475	順調	イクボス・プレイクボス研修の実施により、ワーク・ライフ・バランスの推進に対する職員の意識改革が進んだことで、男性職員の育児休業取得率は令和4年度に引き続き、高水準で推移している。 また、イクボスの実践により、多面評価の「イクボス10カ条を実践できている管理職の割合」も高水準で推移しているため、「順調」と判断。		
								実績	—	52.4 %									
								達成率	—	65.5 %									
							男性職員の育児休業取得率	目標	30.0 %	単年度目標なし	85% (毎年度)								
								実績	58.8 %	71.0 %									
								達成率	196.0 %	—									
							部課長級の多面評価「イクボス10カ条を実践できている管理職の割合」	目標	単年度目標なし	95 %	95% (R5年度)								
								実績	95.0 %	95.0 %									
								達成率	—	100.0 %									

令和5年度 行政評価の取組結果（総務市民局）

【Plan】 計画 / 【Do】 実施											【Check】 評価 / 【Action】 改善								
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	旧所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					R4年度 決算額 （千円）	R5年度		人件費 （目安） 金額 （千円）	R5年度 事業 評価	評価の理由	R5年度 局施策 評価	局施策評価の理由及び課題
							指標名等	現状値 （基準値）	R4年度	R5年度	中期 目標		予算額 （千円）	決算額 （千円）					
II-3-(2)-③ 性別による人権侵害行為の根絶	30	⑤ ⑩ ⑰	男女共同参画基本計画推進事業（配偶者等からの暴力対策事業）	女性の輝く社会推進室	総務局女性の輝く社会推進室	配偶者や恋人等、親しい関係にある人からの暴力は、重大な人権侵害であることを誰もが認識し、暴力を容認しない意識の醸成のための広報・啓発を行う。 配偶者等との間における「平手で打つ」について、暴力と認識する人の割合 ※中期目標改訂（R5年度目標設定時）	76.8% （R4年度）	目標 80 %	単年度目標なし	R4年度の水準より増加（R9年度）	5,671	5,288	2,755	5,050	順調	専門的な知見を持つNPO等と連携して、高校・大学等でデートDV予防教室を実施した（全17回）。また、警察や弁護士等の関係機関との連絡会議を開催し、DV対策に係る現況報告や課題検討等、情報共有を実施した。 デートDV予防教室回数、受講者数については令和4年度と同程度で実施できているため「順調」と判断。	順調	【評価理由】 高校や大学等でのデートDV予防教室の実施や関係機関との連絡会議の開催による情報共有等、活動を着実に実施していることから、「順調」と判断。 【課題】 デートDVは重大な人権侵害であることを誰もが認識し、暴力を容認しない意識の醸成のため、積極的な広報・啓発活動を継続して実施する必要がある。	
								実績 76.8 %	76.8 %										
								達成率 96.0 %	—										

令和5年度 行政評価の取組結果（総務市民局）

【Plan】 計画 / 【Do】 実施										【Check】 評価 / 【Action】 改善								
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	旧所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）				R4年度	R5年度		人件費 (目安) 金額 (千円)	R5年度 事業 評価	評価の理由	R5年度 局施策 評価	局施策評価の理由及び課題
							指標名等	現状値 (基準値)	R4年度	R5年度	中期 目標	決算額 (千円)	予算額 (千円)					
II-3-(2)-④ 女性の 活躍推 進	31	⑤ ⑧ ⑩	北九州市職員 女性活躍・ ワークライフ バランス推進 プログラム推 進事業	女性 の輝 く社 会推 進室	総務 局女 性の 輝く 社会 推進 室	女性職員の活躍とワーク・ライフ・バランスの推進は一体的に取組みを推進することにより相乗効果が高まるため、女性活躍推進法に基づく特定事業主行動計画「女性活躍推進アクションプラン（第2期：平成26年度～30年度）」と次世代育成支援対策推進法に基づく特定事業主行動計画「北九州市職員ダイバーシティ推進プログラム（平成27年度～31年度）」を整理・統合し、令和元年5月に「北九州市職員女性活躍・ワークライフバランス推進プログラム」を策定した。組織の持続的な成長と多様化する市民ニーズへ対応するため、性別にかかわらず活躍できる組織風土を醸成し、全ての職員が育児や介護等のライフスタイルの変化に応じて柔軟な働き方を選択することで、いきいきと働きがいを持って活躍できる職場を目指す。	女性役職者（係長級以上）比率（教職員・消防職員を除く）	17.6% (H30年度)	目標	単年度目標 なし	23 %					順調	順調	【評価理由】 市職員向けの取組としては、研修を通じたキャリア形成支援により、女性職員の登用は着実に進んでいる。女性活躍・ワークライフバランス表彰や企業へのアドバイザー派遣、各種セミナーの開催等により、企業等への取組支援が着実に進んでいる。北九州イクボス同盟については、加盟数が順調に増加している。次世代活躍応援事業については、小中学生を対象として、女性の進出が遅れている分野への進路選択の動機づけにつながる取組を支援することができた。以上のことから「順調」と判断。 【課題】 市職員向けについては、女性職員が抱える能力不安や両立不安の解消は引き続き必要であり、加えてワーク・ライフ・バランスの実現及び生産性向上の観点から、働き方改革がさらに求められており、職場全体の意識改革も含めて、取組を加速させる必要がある。国の方針等を受け、女性活躍やワーク・ライフ・バランスの推進、働き方改革がより一層求められる中、さらなる意識改革が重要となってくる。そのため、企業への取組支援の効果的なPRを図るとともに、働き方改革等への企業の意識改革につながるような取組を強化する必要がある。次世代活躍応援事業については、固定的性別役割分担意識の払拭に向け、次世代を担う児童・生徒の進路選択意識の向上に資する効果的な取組を支援する必要がある。
							女性管理職（課長級以上）比率（教職員・消防職員を除く）	13.6% (H30年度)	実績	16.6 %	18.7 %	23% (R5年度)	3,523	4,340	1,543			
								達成率	—	105.7 %								
									目標	単年度目標 なし	15 %							
									実績	16.6 %	18.7 %							
									達成率	—	124.7 %							

令和5年度 行政評価の取組結果（総務市民局）

【Plan】 計画 / 【Do】 実施														【Check】 評価 / 【Action】 改善					
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	旧所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					R4年度	R5年度		人件費 (目安) 金額 (千円)	R5年度 事業 評価	評価の理由	R5年度 局施策 評価	局施策評価の理由及び課題
							指標名等	現状値 (基準値)	R4年度		R5年度		中期 目標	決算額 (千円)					
32	⑤ ⑧ ⑰		北九州イクボス同盟推進事業	女性の輝く社会推進室	総務局女性の輝く社会推進室	働く人の幸せ、生産性・業績の向上、人材確保に繋がり、その先にある「働きやすいまち北九州」を目指すために、平成29年度に設立した「北九州イクボス同盟」を推進し、経営者・管理職の意識改革を図る。	仕事と生活の調和が図られていると感じる人の割合	目標	R1年度比増加	R1年度比増加	R1年度比増加 (R6年度)	7,841	5,955	5,096	9,550	順調	イクボス同盟加盟企業向けのセミナー開催やeラーニング動画のリニューアル、イクボス推進企業の先進事例を紹介する企業インタビューを実施するなど、「北九州イクボス同盟」の拡大を図り、加盟企業・団体数も増加し、目標を達成した。 (R4:286社→R5:315社) 仕事と生活の調和が図られていると感じる人の割合は、令和元年度に近い水準を維持しているため、「順調」と判断。		
								実績	62.7 %	62.7 %									
達成率	91.5 %	91.5 %																	
33	④ ⑤ ⑧ ⑩		次世代活躍応援事業	女性の輝く社会推進室	総務局女性の輝く社会推進室	女性の就職促進を目指し、性別による固定的な価値観や生き方を払拭するため、学生の頃から「多様な働き方」などの啓発に取り組む。 また、子ども・学生の成長段階にあわせた研究・職業体験プログラムの提供に取り組む高等教育機関を支援する。	研究・職業体験プログラム参加者数	目標	300 人	500人 (R6年度)	—	638	2,200	857	4,825	大変順調	大学との連携による研修・職業体験プログラムなど、小中学生を対象とした、女性の進出が遅れている分野への進路選択の動機づけにつながる取組を行ったことから、「大変順調」と判断。		
								実績	0 人										
								達成率	0.0 %										
							研究・職業体験プログラム参加者へのアンケート結果の満足度	目標	80 %	R5年度の水準より増加 (R9年度)									
								実績	98.8 %										
								達成率	123.5 %										
※指標廃止 (R5年度目標設定時)		※指標追加 (R5年度目標設定時)																	

令和5年度 行政評価の取組結果（総務市民局）

【Plan】 計画 / 【Do】 実施														【Check】 評価 / 【Action】 改善						
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	旧所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					R4年度 決算額 （千円）	R5年度		人件費 （目安） 金額 （千円）	R5年度 事業 評価	評価の理由	R5年度 局施策 評価	局施策評価の理由及び課題	
							指標名等	現状値 （基準値）	R4年度		R5年度		中期 目標	予算額 （千円）						決算額 （千円）
II-3- (4)-① 平和の 尊さへ の理解 の促進	34	④	平和のまち ミュージアム 管理・運営事 業	平和の まち ミュ ージ アム 事務 局	総務 局平 和の まち ミュ ージ アム 事務 局	「北九州市平和のまちミュージアム」の運営にかかる受付監視、施設保守・保安業務、光熱水費等の各種経費を計上し、円滑な館の運営に取り組む。 また、ミュージアムへの幅広い世代の来館を図るため、近隣施設と連携した取組み等を進めるとともに、戦争体験や戦時資料の保存・継承に務める。	平和のまち ミュージアム年 間来館者数	—	目標	50,000 人	50,000 人	50,000 人 (毎年 度)	37,616	39,185	40,691	30,050	やや 遅れ	平和のまちミュージアムは令和4年4月の開館以来、適切な施設の維持管理等、円滑な運営を行っている。 また、「平和のまちスタディツアー」や、企画展、講演会の開催に加え、戦跡を巡るバスツアーや市民センターとの連携講座等、来場促進に向けた様々な取組を実施しているが、年間来館者数は当初の目標を下回っているため、「やや遅れ」と判断。	順調	【評価理由】 平和のまちミュージアムの開館以来、特段問題なく円滑な運営ができています。 「平和のまちスタディツアー」や企画展、講座等をはじめとする当ミュージアムを拠点とした様々な平和学習の取組のほか、「嘉代子桜・親子桜」の植樹や青少年ピースフォーラム派遣事業も着実に実施しており、これらを踏まえて「順調」と判断。
	35	④	非核・平和推 進事業	平和の まち ミュ ージ アム 事務 局	総務 局平 和の まち ミュ ージ アム 事務 局	本市の平和に対する基本的姿勢を示す「北九州市非核平和都市宣言」に込められた平和への願いを市民に伝えるため、また、悲惨な戦争の記憶を風化させることなく次の世代に伝えるため、「嘉代子桜・親子桜」の植樹や長崎市への市民派遣など、平和に関連した様々な事業を実施する。	市民が平和の尊 さを理解し、共 有していくこと	—	目標	—	—	市民が 平和の 尊さを 理解す ること	7,817	10,000	6,307	13,950	順調	「嘉代子桜・親子桜」について、未植樹の特別支援学校や私立高校への植樹を実施したほか、既植樹校の生育状況を調査し、一部の学校等で補植を実施した。 長崎市平和派遣事業は台風の影響で中止となり、青少年ピースフォーラム派遣事業については、1日のみの開催となったが、原爆資料館の見学、被爆体験講話やフィールドワーク等、充実した内容で事業を実施することができた。 以上を踏まえ、市民と平和の尊さの共有が図れたと考え、「順調」と判断。		

令和5年度 行政評価の取組結果（総務市民局）

【Plan】 計画 / 【Do】 実施											【Check】 評価 / 【Action】 改善								
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	旧所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					R4年度 決算額 （千円）	R5年度		人件費 （目安） 金額 （千円）	R5年度 事業 評価	評価の理由	R5年度 局施策 評価	局施策評価の理由及び課題
							指標名等	現状値 （基準値）	R4年度		R5年度		中期 目標	予算額 （千円）					
Ⅲ-1- (1)-④ 市民の モラル・マ ナーの 向上	36	①	モラル・マ ナーアップ関 連条例推進事 業	安全・安 心推進 課	市民文 化ス ポー ツ局 安全・ 安心 推進 課	<p>条例や基本計画に基づき下記事業に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小倉・黒崎地区（迷惑行為防止重点地区）での巡視活動（過料の適用） ・地域が実施する迷惑行為防止活動に対する支援 ・小学生を対象としたモラル・マナーアップ教育 ・モラル・マナーアップに関する広報啓発 	迷惑行為防止に係る地域活動団体の増加	82団体 (H26年度)	<p>目標</p> <p>前年度 (100団体) 比増</p>	<p>実績</p> <p>100 団 体</p>	<p>99 団 体</p>	前年度 比増 (毎 年 度)	17,013	16,322	12,772	6,150	順調	<p>迷惑行為防止重点地区での巡視・啓発活動回数は、現状維持であり、迷惑行為防止に係る地域活動団体は、1団体減となった。</p> <p>路上喫煙率については、黒崎地区は微増となったものの、小倉地区は半減し、概ね目標に近い実績を達成したため「順調」と判断。</p>	<p>【評価理由】</p> <p>迷惑行為防止重点地区での巡視・啓発活動回数は、現状維持であり、迷惑行為防止に係る地域活動団体は、1団体減となった。</p> <p>路上喫煙率については、黒崎地区は微増となったものの、小倉地区は半減し、概ね目標に近い実績を達成したため「順調」と判断。</p> <p>【課題】</p> <p>巡視活動の強化や迷惑行為防止に係る活動の裾野の拡大のための広報や周知が必要。</p>
						路上喫煙率（歩行者に占める喫煙者の割合）	小倉 0.17% 黒崎 0.24% (H26年度)	<p>目標</p> <p>前年度 (小倉 0.08% 黒崎 0.41%) 以下</p>	<p>実績</p> <p>小倉 0.14% 黒崎 0.38%</p>	<p>小倉 0.07% 黒崎 0.43%</p>	前年度 以下 (毎 年 度)								
Ⅲ-3- (1)-① 市民主 体の地 域づく りの促 進	37	①	地域総括補助 金	地域振 興課	市民文 化ス ポー ツ局 地域 振興 課	<p>各地域団体が連携・協力し、まちづくり協議会を中心に地域が一体となった地域づくりを促進するため、これまで市各部署が事業ごとに地域団体に交付していた補助金を可能な限り一本化し、まちづくり協議会に交付する。</p>	地域総括補助金を導入したまちづくり協議会数	130団体 (H26年度)	<p>目標</p> <p>136 団 体</p>	<p>実績</p> <p>136 団 体</p>	<p>137 団 体</p>	137団体 (R5年 度)	287,519	314,980	294,195	3,825	順調	<p>補助金の導入をしたまちづくり協議会数は、目標に達したことから「順調」と判断。</p>	<p>【評価理由】</p> <p>地域総括補助金、まちづくり専門家派遣事業を利用したまちづくり協議会の数も目標を達成しているため、「順調」と判断。</p> <p>【課題】</p> <p>地域が抱える課題や、その解決に向けた取組の内容は、様々であり統一的な施策による支援が困難であるが、他の事業局や区役所コミュニティ支援課等と連携しながら、地域が主体的に地域課題を解決することができるよう、住民主体の地域づくりに努める必要がある。</p>
						達成率	100.0 %	100.0 %	100.0 %										

令和5年度 行政評価の取組結果（総務市民局）

【Plan】 計画 / 【Do】 実施														【Check】 評価 / 【Action】 改善								
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	旧所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					R4年度 決算額 （千円）	R5年度		人件費 （目安） 金額 （千円）	R5年度 事業 評価	評価の理由	R5年度 局施策 評価	局施策評価の理由及び課題			
							指標名等	現状値 （基準値）	R4年度		R5年度		中期 目標	予算額 （千円）						決算額 （千円）		
	38	⑪ ⑰	住民主体の地域づくりの促進	地域振興課	市民文化スポーツ局地域振興課	まちづくり協議会を中心としたネットワークを構築し、まちづくり協議会が相互に情報を共有し交流できる場を設けるなど、住民主体の地域づくりを進める。	地域づくり活動への参加者の割合	39.6% (H29年度)	目標 50 %	実績 29.2 %	達成率 58.4 %	50 %	50 %	50% (R7年度)	1,199	1,480	1,480	3,575	やや遅れ	「まちづくり専門家派遣事業」を利用したまちづくり協議会の数が、目標数4団体に対し、実績は4団体で、目標数を達成した。また、地域づくり活動への参加者の割合は、令和4年度の実績と比べ微増しているが、達成率59.4%であるため「やや遅れ」と判断。		
Ⅲ-3-(1)-② 地域コミュニティ施設の活用・運営	39	⑪ ⑰	市民センターの維持管理	地域振興課	市民文化スポーツ局地域振興課	市民センターの管理運営を円滑・適正に行うため、公募により多様な人材を市民センター館長として採用し、地域の活動を担うまちづくり協議会への管理委託などを行う。 また、地域活動の拠点施設としての機能の維持・向上を図るため、老朽化対策等の改修を計画的に行う。	市民センター1館当たりの利用者数	32千人 (R1年度)	目標 42 千人	実績 22 千人	達成率 52.4 %	42 千人	42 千人	42千人 (毎年度)	2,740,867	2,500,551	2,423,431	46,250	順調	老朽化対策等のハード面の整備は、目標を上回る整備が実施できた（工事等の目標22館、実績26館）。また、新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行されたこと等に伴い、市民センターの利用者数やコミュニティ活動への参加人数が令和4年度より増加しており、目標達成率が60%に達しているため「順調」と判断。	順調	【評価理由】 市民センターの老朽化対策等のハード面は目標を上回る整備ができた。また、市民センターの利用者数やコミュニティ活動への参加人数も目標達成率が60%に達しているため「順調」と判断。 【課題】 地域の課題は多様化しており、課題を踏まえた対策を検討することが必要である。
							市民センターにおけるコミュニティ活動の参加人数（延べ）	2,084千人 (H27年度)	目標 2,200 千人	実績 1,194 千人	達成率 54.3 %	2,200 千人	2,200 千人	2,200千人 (毎年度)								
Ⅲ-3-(1)-③ 自治会・町内会への加入促進	40	⑪ ⑰	自治会・町内会活性化の促進	地域振興課	市民文化スポーツ局地域振興課	自治会と連携しながら、加入率向上や組織・活動の見直し及び人材育成など新たな課題への対応につながる様々な事業に取り組む、自治会・町内会の活性化を図る。	地域づくり活動へ肯定的な考えの市民の割合	81.0% (H29年度)	目標 85 %	実績 80.9 %	達成率 95.2 %	85 %	85 %	85% (毎年度)	28,630	34,084	33,919	4,095	順調	令和5年度実績について、「北九州市自治会活動応援事業者表彰」は令和4年度70団体に対し令和5年度82団体、「マンション等の加入促進に向けたマンション管理会社への働きかけ」は令和4年度4企業に対し令和5年度5企業、「地域づくり活動への参加者の割合」は令和4年度29.2%に対し令和5年度29.7%であり、いずれも令和4年度の実績を上回っている。また、地域活動への肯定的な考えの市民の割合は79.1%であった。以上のことから、「順調」と判断。	順調	【評価理由】 自治会・町内会の加入促進や活性化については、市自治会総連合会と連携しながら自治会の重要性等のPR等の広報やマンションへの加入促進の取組等、自治会の課題に対する支援を継続的に取り組んでいる。「地域づくり活動への参加者の割合」の達成率が若干低い。地域づくり活動へ肯定的な市民の割合は概ね目標を達成できたことから、「順調」と判断。 【課題】 若い世代への働きかけや、マンション等の自治会加入促進に向けた取組などにより、自治会・町内会の活性化に努めていく必要がある。
							地域づくり活動への参加者の割合	39.6% (H29年度)	目標 50 %	実績 29.2 %	達成率 58.4 %	50 %	50 %	50% (R7年度)								

令和5年度 行政評価の取組結果（総務市民局）

【Plan】 計画 / 【Do】 実施														【Check】 評価 / 【Action】 改善					
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	旧所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					R4年度 決算額 （千円）	R5年度		人件費 （目安） 金額 （千円）	R5年度 事業 評価	評価の理由	R5年度 局施策 評価	局施策評価の理由及び課題
							指標名等	現状値 （基準値）	R4年度		R5年度		中期 目標	予算額 （千円）					
Ⅲ-3-(2)-① NPO・ボラン ティア活動の 支援	41	④ ⑰	NPO・市民活 動促進事業	市民活 動推 進課	市民文 化ス ポー ツ局 市民 活動 推 進課	市民活動の促進 に加え、NPOと行政 の協働を推進する ため、活動や協働 等に関する相談・ 助言、情報提供、 研修・啓発等を実 施する。	サポートセン ター利用者数	29,293 人 (R1年 度)	目標 20,000 人 実績 9,791 人 達成率 49.0 %	20,000 人 10,231 人 51.2 %	20,000 人 (毎年 度)	16,524	17,434	15,890	19,725	やや 遅れ	新規設立NPO法人数は順調 に推移するも、サポートセン ターの利用者数が目標を下 回っていることから「やや遅 れ」と判断。	順調	【評価理由】 新規設立NPO法人数や補助 交付事業件数等は、順調に推 移しているため、「順調」と 判断。 【課題】 さらなる市民活動の支援に より、NPO・ボランティア活 動参加者の掘り起こしにつな げていく必要がある。 サポートセンター利用者数 はコロナ禍以前の水準を目指 す。
			新規設立NPO法 人数	17法人 (R1年 度)	目標 15 法 人 実績 11 法 人 達成率 73.3 %	15 法 人 10 法 人 66.7 %	15法人 (毎年 度)												
	42	④	NPO公益活動 支援事業	市民活 動推 進課	市民文 化ス ポー ツ局 市民 活動 推 進課	市民活動の更なる 促進を支援する ため、NPO等が専門 性を発揮して行う 活動に対し、事業 費の一部を補助す る。	補助交付事業件 数（累計）	109件 (R1年 度)	目標 140 件 実績 137 件 達成率 97.9 %	150 件 145 件 96.7 %	150件 (R5年 度)	2,300	2,694	1,587	3,275	順調	補助採択事業の事例紹介に ついては、中間報告会を開催 し事業周知に努めた。 また、補助交付事業件数は 目標を概ね達成したため、 「順調」と判断。	順調	
			成果発表会の参 加人数（累計）	431人 (R1年 度)	目標 630 人 実績 497 人 達成率 78.9 %	680 人 528 人 77.6 %	680人 (R5年 度)												
Ⅲ-3-(2)-② NPO・企 業、研 究機 関な どの 連 携の 構 築	43	⑰	多様な主体に よる市民活動 の輪づくり事 業	市民活 動推 進課	市民文 化ス ポー ツ局 市民 活動 推 進課	市民主体のまち づくりを推進する ため、市民活動へ の理解を深め、新 たな担い手の参加 を促すとともに、 NPOと様々な団体間 のネットワークづ くりや協働を支援 する。	NPOと企業・地 域・大学等との 協働件数	4件 (R1年 度)	目標 5 件 実績 31 件 達成率 620.0 %	10 件 23 件 230.0 %	5件 (毎年 度)	2,095	2,066	1,944	2,470	大変 順調	多様な団体間のネットワ ークを構築し、協働件数が目標 を大幅に上回っているため、 「大変順調」と判断。	大変 順調	【評価理由】 協働件数が目標を大幅に上 回っており、連携の構築が促 進されたため、「大変順調」 と判断。 【課題】 参加団体へのフォローアッ プ等を行い、団体間の協働事 業の立ち上げ等を支援する必 要がある。

令和5年度 行政評価の取組結果（総務市民局）

【Plan】 計画 / 【Do】 実施														【Check】 評価 / 【Action】 改善								
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	旧所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					R4年度	R5年度		人件費 (目安) 金額 (千円)	R5年度 事業 評価	評価の理由	R5年度 局施策 評価	局施策評価の理由及び課題			
							指標名等	現状値 (基準値)	R4年度	R5年度	中期 目標	決算額 (千円)	予算額 (千円)	決算額 (千円)								
Ⅲ-3-(3)-① 市民参画と協働のための仕組みづくり	44	17	北九州市自治基本条例推進事業	総務課	総務局総務課	本市の自治の基本的ルールを定めた「北九州市自治基本条例」（平成22年10月1日施行）の意義や理念などを多くの市民に理解してもらうため、周知等を行う。また、情報共有や住民参画の視点から業務を行い、条例の目指すまちづくりができるよう、職員向けの研修を行う。	市民が主役の自治（市民自治）の確立	—	目標	—	—	—	—	843	2,510	1,707	4,650	順調	中学生用副読本の作成・配付、市職員への研修、市民向け講演会等の開催により、条例に対する理解が深まっているものと考え、「順調」と判断。	【評価理由】 北九州市自治基本条例推進事業について、中学生用副読本の作成・配付、市職員への研修、市民向け講演会等の開催により、条例に対する理解を深め、市政への市民参画の重要性について考えてもらうための各種取組により、市民の関心を高めている。		
	45	4	「NPOとの協働によるまちづくり」人材育成事業	市民活動推進課	市民文化スポーツ局市民活動推進課	協働に関する理解を深めるための研修、協働事業を実施するために必要な団体運営力向上を図るための研修を実施する。 また、経済的に自立したNPOの増加を図るため、資金調達力や企画力の向上を図るセミナーを実施する。	NPOとの協働についての研修への参加者数（累計）	2,146人 (R1年度)	目標	2,500 人	2,750 人	2,750人 (R5年度)	実績	2,540 人	2,925 人	1,029	1,206	867	6,400	順調	NPOとの協働についての研修への参加者数が目標を達成しているため、「順調」と判断。	【課題】 自治基本条例に対する理解を深め、市民の市政への更なる参画を推進する必要がある。 また、多様な主体による協働をさらに推進するため、協働意識の醸成や、協働のための体制づくりを強化する必要がある。
									達成率	101.6 %	106.4 %		目標	12 団体	15 団体							
46	17		多様な主体による市民活動の輪づくり事業	市民活動推進課	市民文化スポーツ局市民活動推進課	市民主体のまちづくりを推進するため、市民活動への理解を深め、新たな担い手の参加を促すとともに、NPOと様々な団体間のネットワークづくりや協働を支援する。	NPOと企業・地域・大学等との協働件数	4件 (R1年度)	目標	5 件	10 件	5件 (毎年度)	実績	31 件	23 件	2,095	2,066	1,944	2,470	大変順調	多様な団体間のネットワークを構築し、協働件数が目標を大幅に上回っているため、「大変順調」と判断。	
									達成率	620.0 %	230.0 %											

令和5年度 行政評価の取組結果（総務市民局）

【Plan】 計画 / 【Do】 実施											【Check】 評価 / 【Action】 改善									
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	旧所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					R4年度 決算額 （千円）	R5年度		人件費 （目安） 金額 （千円）	R5年度 事業 評価	評価の理由	R5年度 局施策 評価	局施策評価の理由及び課題	
							指標名等	現状値 （基準値）	R4年度		R5年度		中期 目標	予算額 （千円）						決算額 （千円）
Ⅲ-3- (3)-② 市民との協働を推進 できる市役所づくり	47	④ ⑰	NPO・市民活動促進事業	市民活動推進課	市民文化スポーツ局市民活動推進課	市民活動の促進に加え、NPOと行政の協働を推進するため、活動や協働等に関する相談・助言、情報提供、研修・啓発等を実施する。	サポートセンター利用者数	29,293人 (R1年度)	目標 20,000人	実績 9,791人	達成率 49.0%	20,000人 (毎年度)	16,524	17,434	15,890	19,725	やや遅れ	新規設立NPO法人数は順調に推移するも、サポートセンターの利用者数が目標を下回っていることから、「やや遅れ」と判断。	順調	【評価理由】 サポートセンター利用者数は目標を下回るものの、その他の目標は概ね達成しており、市民との協働を推進していると考えられるため、「順調」と判断。 【課題】 市民活動の担い手の育成や、協働に対する啓発をさらに推進する必要がある。 サポートセンター利用者数はコロナ禍以前の水準を目指す。
						新規設立NPO法人数	17法人 (R1年度)	目標 15法人	実績 11法人	達成率 73.3%	15法人 (毎年度)									
	48	④ ⑰	「NPOとの協働によるまちづくり」人材育成事業	市民活動推進課	市民文化スポーツ局市民活動推進課	協働に関する理解を深めるための研修、協働事業を実施するために必要な団体運営力向上を図るための研修を実施する。 また、経済的に自立したNPOの増加を図るため、資金調達力や企画力の向上を図るセミナーを実施する。	NPOとの協働についての研修への参加者数（累計）	2,146人 (R1年度)	目標 2,500人	実績 2,540人	達成率 101.6%	2,750人 (R5年度)	1,029	1,206	867	6,400	順調	NPOとの協働についての研修への参加者数が目標を達成しているため、「順調」と判断。	順調	【課題】 市民活動の担い手の育成や、協働に対する啓発をさらに推進する必要がある。 サポートセンター利用者数はコロナ禍以前の水準を目指す。
					運営改善団体数（累計）	3団体 (R1年度)	目標 12団体	実績 10団体	達成率 83.3%	15団体 (R5年度)										

令和5年度 行政評価の取組結果（総務市民局）

【Plan】 計画 / 【Do】 実施														【Check】 評価 / 【Action】 改善					
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	旧所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					R4年度 決算額 （千円）	R5年度		人件費 （目安） 金額 （千円）	R5年度 事業 評価	評価の理由	R5年度 局施策 評価	局施策評価の理由及び課題
							指標名等	現状値 （基準値）	R4年度	R5年度	中期 目標		予算額 （千円）	決算額 （千円）					
Ⅲ-3-(3)-③ 企業の 地域活 動への 参画促 進	49	⑤ ⑧ ⑩	ワーク・ライ フ・バランス 推進事業	女性 の輝く 社会推 進室	総務 局女 性の 輝く 社会 推進 室	誰もが多様な働 き方や生き方を選 択でき、活力ある 豊かな社会を実現 するため、企業等 の取組支援などを 行うとともに、企 業や地域での様々 な活動と連携しな がら仕事と生活の 調和（ワーク・ラ イフ・バランス） の推進を図る。	仕事と生活の調 和が図られてい ると感じる人の 割合	68.5% (R1年 度)	目標 R1年度比 増加	R1年度比 増加	中期 目標 R1年度 比増加 (R6年 度)	3,960	6,911	3,069	8,400	順調	女性活躍・ワークライフバ ランス表彰では新たに4社が受 賞し、累計が90社となり、目 標通りの表彰数となった。 女性活躍やワークライフバ ランスの推進に取り組む企業 へのアドバイザー派遣、各種 セミナー開催などの支援につ いて、申込件数は令和4年度と ほぼ同程度（R4：26回→R5： 27回）であった。 また、これから取り組もう とする企業の参考になるよ う、市内の様々な業種の企業 の先進的な取組事例をホーム ページで紹介するなど、周知 方法を工夫した。 仕事と生活の調和が図られ ていると感じる人の割合は、 令和元年度に近い水準を維持 しているため、「順調」と判 断。	順調	【評価理由】 女性活躍・ワークライフバ ランス表彰や企業へのアドバ イザー派遣、各種セミナーの 開催等により、企業等への取 組支援が着実に進んでいるた め、「順調」と判断。 【課題】 国の方針等を受け、女性活 躍やワーク・ライフ・バラン スの推進、働き方改革がより 一層求められる中、さらなる 意識改革が重要となってい る。そのため、企業への取組 支援の効果的なPRを図ると ともに、働き方改革等への企 業の意識改革につながるよう な取組を強化する必要がある。
Ⅳ-3-(2)-① 若年者 の就業 意識の 啓発や 能力開 発・就 職活動 への支 援	50	④ ⑤ ⑧ ⑩	次世代活躍応 援事業	女性 の輝く 社会推 進室	総務 局女 性の 輝く 社会 推進 室	女性の就職促進 を目指し、性別 による固定的な価値 観や生き方を払拭 するため、学生の 頃から「多様な働 き方」などの啓発 に取り組む。 また、子ども・ 学生の成長段階に あわせた研究・職 業体験プログラムの 提供に取り組む 高等教育機関を支 援する。	研究・職業体験 プログラム参加 者数 ※指標廃止 (R5年度目標設 定時)	—	目標 300 人	実績 0 人	500人 (R6年 度)	638	2,200	857	4,825	大変 順調	大学との連携による研修・ 職業体験プログラムなど、小 中学生を対象とした、女性の 進出が遅れている分野への進 路選択の動機づけにつながる 取組を行ったことから、「大 変順調」と判断。 【課題】 固定的性別役割分担意識の 払拭に向け、次世代を担う児 童・生徒の進路選択意識の向 上に資する効果的な取組を支 援する必要がある。	順調	【評価理由】 小中学生を対象として、市 内企業と連携して女性の進出 が遅れている分野への進路選 択の動機づけにつながる取組 を行う大学等を支援すること ができた。 以上のことから、「順調」 と判断。 【課題】 固定的性別役割分担意識の 払拭に向け、次世代を担う児 童・生徒の進路選択意識の向 上に資する効果的な取組を支 援する必要がある。
						研究・職業体験 プログラム参加 者へのアンケート 結果の満足度 ※指標追加 (R5年度目標設 定時)	—	目標 80 %	実績 98.8 %	R5年度 の水準 より増 加 (R9年 度)	達成率 123.5 %								

令和5年度 行政評価の取組結果（総務市民局）

【Plan】 計画 / 【Do】 実施														【Check】 評価 / 【Action】 改善					
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	旧所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					R4年度	R5年度		人件費 (目安) 金額 (千円)	R5年度 事業 評価	評価の理由	R5年度 局施策 評価	局施策評価の理由及び課題
							指標名等	現状値 (基準値)	R4年度	R5年度	中期 目標	決算額 (千円)	予算額 (千円)	決算額 (千円)					
IV-3-(2)-② 女性が活躍する産業都市づくりの推進	51	④ ⑤ ⑧ ⑩ ⑰	男女共同参画センター管理運営事業	女性の輝く社会推進室	総務局女性の輝く社会推進室	男女共同参画センター・ムーブにおいて、施設の運営をはじめ、地域に根ざした男女共同参画推進、女性リーダー育成、就職・再就職に向けた就業・キャリアアップ支援、あるいは相談事業など、様々な事業を展開し、男女共同参画社会の形成を推進する。	性別による固定的役割分担意識に肯定的な人の割合 ※中期目標改訂（R5年度目標設定時）	目標	H29年度(26.7%)の水準より減少	単年度目標なし	R4年度の水準より減少（R9年度）	250,966	244,088	244,088	8,950	順調	一部の講座で対面ではなくオンラインによる講義等、新たな実施手法等を取り入れ工夫して実施したことにより、開催件数及び参加人数が概ね目標を達成したことから（目標：134件・7,759人、実績：130件・7,318人）、「順調」と判断。	順調	【評価理由】 市民向けの取組として、男女共同参画センターにおいて、男女共同参画社会の形成の推進に向けたイベントや講座の開催、就業・キャリアアップ支援、相談等をオンライン等による講義等、工夫して実施している。 市内企業等に向けた取組としては、北九州イクボス同盟については、加盟数が順調に増加しており、仕事と生活の調和がとれていると感じる人の割合も安定的に推移している。 次世代活躍応援事業については、小中学生を対象として、女性の進路選択の動機づけにつながる取組を行う大学等を支援することができた。 以上のことから、「順調」と判断。 【課題】 市民向けの取組として、男女共同参画センター・ムーブにおいて、男女共同参画社会の形成を一層推進するため、より多くの方が関心を持って参加できるイベントや講座となるよう継続的にテーマや事業手法を見直す必要がある。
								実績	17.0 %	—									
52	⑤ ⑧ ⑰	北九州イクボス同盟推進事業	女性の輝く社会推進室	総務局女性の輝く社会推進室	働く人の幸せ、生産性・業績の向上、人材確保に繋がり、その先にある「働きやすいまち北九州」を目指すために、平成29年度に設立した「北九州イクボス同盟」を推進し、経営者・管理職の意識改革を図る。	仕事と生活の調和が図られていると感じる人の割合	目標	R1年度比増加	R1年度比増加	R1年度比増加（R6年度）	7,841	5,955	5,096	9,550	順調	イクボス同盟加盟企業向けのセミナー開催やeラーニング動画のリニューアル、イクボス推進企業の先進事例を紹介する企業インタビューを実施するなど、「北九州イクボス同盟」の拡大を図り、加盟企業・団体数も増加し、目標を達成した。 (R4：286社→R5：315社) 仕事と生活の調和が図られていると感じる人の割合は、令和元年度に近い水準を維持しているため、「順調」と判断。	順調		
							実績	68.5% (R1年度)	62.7 %										62.7 %
						ダイバーシティ行動宣言等登録・届出企業（累計）	597社 (H26年度)	目標	単年度目標なし	単年度目標なし	1,600社 (R6年度)								
								実績	1,624 社	1,610 社									
								達成率	—	—									

令和5年度 行政評価の取組結果（総務市民局）

【Plan】 計画 / 【Do】 実施														【Check】 評価 / 【Action】 改善					
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	旧所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					R4年度 決算額 （千円）	R5年度		人件費 （目安） 金額 （千円）	R5年度 事業 評価	評価の理由	R5年度 局施策 評価	局施策評価の理由及び課題
							指標名等	現状値 （基準値）	R4年度	R5年度	中期 目標		予算額 （千円）	決算額 （千円）					
	53	④ ⑤ ⑧ ⑩	次世代活躍応援事業	女性の輝く社会推進室	総務局女性の輝く社会推進室	<p>女性の就職促進を目指し、性別による固定的な価値観や生き方を払拭するため、学生の頃から「多様な働き方」などの啓発に取り組む。</p> <p>また、子ども・学生の成長段階にあわせた研究・職業体験プログラムへのアンケート結果の満足度を支援する。</p>	研究・職業体験プログラム参加者数	—	目標 300 人	実績 0 人	達成率 0.0 %	500人 (R6年度)	638	2,200	857	4,825	大変順調	大学との連携による研修・職業体験プログラムなど、小中学生を対象とした、女性の進出が遅れている分野への進路選択の動機づけにつながる取組を行ったことから、「大変順調」と判断。	
						<p>研究・職業体験プログラム参加者へのアンケート結果の満足度</p>	研究・職業体験プログラム参加者へのアンケート結果の満足度	—	目標 —	実績 98.8 %	達成率 123.5 %	R5年度の水準より増加 (R9年度)							
VII-1-(3)-③	54	④ ⑤ ⑩	(公財) アジア女性交流・研究フォーラム事業	女性の輝く社会推進室	総務局女性の輝く社会推進室	<p>「国際的な最新情報の収集・発信」「成果の地域還元」「あらゆる分野での女性のエンパワメント」「次世代育成」「情報提供の充実」を目指し、様々な事業を実施する、(公財) アジア女性交流・研究フォーラムの活動を支援する。</p>	性別による固定的役割分担意識に肯定的な人の割合	17.0% (R4年度)	目標 H29年度 (26.7%)の水準より減少	実績 17.0 %	達成率 136.3 %	単年度目標なし	39,000	39,000	39,000	4,050	順調	<p>【評価理由】</p> <p>テーマや対象を絞り込んだ国際会議やセミナーの開催等、市民の理解促進に向け、改善を加えながら実施しており、参加者の満足度が目標を達成（目標：70%、実績：89.7%）していることから「順調」と判断。</p>	
						<p>男女共同参画社会という言葉の認知度</p>	男女共同参画社会という言葉の認知度	78.4% (R4年度)	目標 80 %	実績 78.4 %	達成率 98.0 %	単年度目標なし	R4年度の水準より増加 (R9年度)					<p>【課題】</p> <p>本市の男女共同参画社会の形成の推進に向け、市の男女共同参画基本計画に基づく重要施策につながる取組を進めていく必要がある。市民や地域に対して、取組の成果を還元できるように、選択と集中により事業の見直し等を検討する必要がある。</p>	